

専修大学で学ぶ留学生を元気に！

校友会・
育友会共催

留学生を囲む会

5月19日(火)
生田キャンパス



専修大学には多くの留学生が学んでいます。育友会は校友会との共催で、母国を離れて学ぶ留学生たちが元気に楽しく過ごせることを願って、「留学生を囲む会」を毎年開催しています。今年は5月19日(火)に生田キャンパス5階の食堂CABINで開催し、留学生26名のほか、日本人学生、留学生OB、大学教員、校友会役員、育友会役員の29名、総勢55名が参加し、第I部のグループ交流、第II部の懇親会を通して、親睦を深めました。

第I部

留学生・日本人学生と校友会・育友会役員とのグループ交流
テーマ：将来の夢の実現に向けて



車座になったのグループ交流では、留学生に留学の目的や将来の夢、また日本での生活や学習上の不安や悩みなどを語っていただきました。卒業後に日本での就職を望む留学生も多く、どのように就職活動をしたらいいのか不安を感じるという声や、せっかく留学しているのだからもっと日本人の学生と友達になりたいという声も聞かれ、留学生OB、教員、校友会、育友会の役員からは、さまざまなアドバイスが語られました。

私は将来、日本で旅行関係の仕事をしたいと思っていて、添乗員の資格を取りました。できれば自分で会社をつくりたいと思っています。今日はたくさんのお会いがあり、新たに日本人学生の友達ができただけ嬉しかったです。



第II部 懇親会



高野雅夫平成26年度育友会長、高橋裕国際交流センター長の挨拶に続き、阿藤正道学生部長による乾杯の音頭で、夕食をとりながらの懇談会が始まりました。

会の途中には、廣瀬玲子文学部教授が自身の中国での留学経験を交えて留学生へのメッセージを語ったほか、留学生2名が専修大学での留学生活について発表しました。

その後、生活に役立つグッズを景品にした抽選会を開催。校友会、育友会から提供された食器やタオル、服やバッグなど、留学生たちは当選した景品を互いに見せ合い、大いに盛り上がりました。

最後は、全員で校歌を歌い、小宮多喜次校友会副会長(現・校友会会長)の挨拶をもって会を終えました。

人の優しさ、つながりを感じた留学生活



来日して4年目になりますが、わからないことがあっても親切に教えてくれるなど、日本での生活では想像以上に人の優しさを感じてきました。そして、専修大学は人とのつながりを大切にしていると思います。私も人とのつながりを大切にしていきたいです。留学生活は、苦労や大変なこともありましたが、それ以上に楽しいことがたくさんありました。これからも日本での生活を今まで以上に楽しんでいきたいと思っています。

日本で受けた「おもてなし」、日本に来てよかった



日本に来て2年3カ月になります。留学を決めたとき、言葉の壁は大丈夫か、きちんと勉強できるかと不安でしたが、いまは楽しく大学生活を送っています。これは、専修大学の国際交流センターの方々やSHIPの学生がサポートしてくれたお陰だと思っています。また、この会を開いてくれた育友会、校友会の方々にも感謝しています。東京オリンピック招致のときに話題になった「おもてなし」を、日本での生活ですごく感じます。人の優しさを感じて、勉強も充実しています。日本に来てよかったと思っています。

留学生と交流しサポートするサークル国際交流会 SHIP



私たちSHIPはスポーツ大会、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーなどを通じて留学生との交流を図っています。留学生には日本での生活の不安などがあれば話してほしいです。私たちの知っていることなら教えられ、留学生がよりよい環境で勉強できるようサポートしたいと思っています。留学生の勉強への高い意識には、私たちも刺激を受けています。